

○ナガトザサについて (鈴木貞雄) Sadao SUZUKI: On *Sasa Yoshiokai* Nakai

ナガトザサは吉岡重夫氏が1934年11月に山口県長門峠で採集したササ属の一種に対しても中井猛之進博士が Sect. *Acrocladula* (= *Lasioderma*) ナンブスズ節の新種 *Sasa Yoshiokai* Nakai として本誌12巻 224 ページ (1936) に発表された。その基準標本は東京大学総合研究資料館にあり、3枚の台紙に單一稈1本と分枝稈4本が貼布されている。稈の上部から枝がでることはナンブスズ節と同じであるが、ナンブスズ節は一見してスズダケ属 *Sasamorpha* に似た感じがするものだが、ナガトザサには全くそれがない。またナンブスズ節では通常稈鞘が節間と同じ長さか、またはすこし短いのに、ナガトザサでは稈鞘は節間より著しく短いこともナンブスズ節のほかの種とちがっている。私はナガトザサはナンブスズ節でも一風変った型と思っていた。

ナガトザサは稈鞘、節間、葉鞘および葉に全く毛がなく、その点でナンブスズ節のサイヨウザサ *Sasa stenophylla* Koidz. (Jan. 1936) やヒメカミザサ *S. Tobagenoana* Koidz. (May 1936) によく似ている。ただしサイヨウザサは小形で、コスズモドキ型 (小泉源一博士のコスズモドキ節 sect. *Nanopseudosasamorpha*) であるのに対してヒメカミザサは大形で、狭義のナンブスズ節 *Lasioderma* に属し、ナガトザサはその中間型のスズモドキ型 (小泉博士のスズモドキ節 sect. *Pseudosasamorpha*) のようである。私は広義のナンブスズ節 *Lasioderma* のこれら3つの型について小泉博士の section を採用せず、狭義の *Lasioderma* とスズモドキ型を統合し、それとコスズモドキ型との関係を母種と亜種の段階で区別することにしている。そのような見地から私はヒコビア8巻 61 ページ (1977) でナガトザサをサイヨウザサの亜種として学名を *S. stenophylla* Koidz. subsp. *Yoshiokai* (Nakai) S. Suzuki と変更した。また拙著日本タケ科植物総目録 (1978) でヒメカミザサをナガトザサのシノニムとした。

私は1980年8月、四国石鎚山の中腹の八丁坂 (標高 1400 m) で全体に全く毛のない正型のナンブスズ節のササを見つけた。私の感覚ではそれはヒメカミザサ *Sasa Tobagenoana* Koidz. で、ナガトザサとは考えられなかった。ちょうどその1ヶ月くらい前に山口県阿東町の見明長門氏から長門峠産のいわゆるナガトザサとしてきたササの完全標本がたくさん送られてきていたので、それを再検討したところ、それはアマギザサ節 *Monilicladae* のイブキザサ *S. Tsuboiana* Makino の小形化したものであることがわかった。そこで東大の基準標本を再検討したところ、それは見明氏の標本と全く同じものであることが判明した。基準標本は稈の下部がなく、ササの標本としては不完全品のため中井博士はナガトザサの Section 判定を誤ったものと考えられる。イブキザサは本州中部では稈が高さ 2 m またはそれ以上になり、直径は 10 mm 内外に達し剛壯であるのに対して、長門峠のものは小型で、最大のものでも高さ 80~90 cm、直径 5 mm 程度であり、基準標本では直径が 3 mm で纖細である。

以上のことからサイヨウザサの亜種の段階でナガトザサの代りにヒメカミザサを入れ

て次のように学名を変更したい。基準標本の閲覧を許可された東大総合研究資料館ならびに貴重な標本をたくさん送って下された見明長門氏に対して深く感謝する。

*Sasa Tsuboiana* Makino in Bot. Mag. Tokyo 26: 23 (1912).—Makino et Nemoto, Fl. Jap. ed. 2, 1399 (1931).—Nemoto, Fl. Jap. Suppl. 897 (1936).—Suzuki in Jap. Journ. Bot. 19: 99 (1965); in Hikobia 4: 326 (1965) et 7: 95 (1975); Ind. Jap. Bamb. 162 et 346 (1978).—*Sasa Yoshiokai* Nakai in Journ. Jap. Bot. 12: 224 (1936).—*S. stenophylla* Koidz. subsp. *Yoshiokai* (Nakai) S. Suzuki in Hikobia 8: 61 (1977); Ind. Jap. Bamb. 134 et 343 (1978), syn. nov.

Nom. Jap.: Ibuki-zasa, Tsuboi-zasa, Nagato-zasa.

Distrib. Japan (Middle and S. W. Honshū and Shikoku).

*Sasa stenophylla* Koidz. in Acta Phytotax. Geobot. 5: 48 (1936) et 11: 320 (1942).—Suzuki, Ind. Jap. Bamb. 132 et 343 (1978).

subsp. *Tobagenozoana* (Koidz.) S. Suzuki, comb. nov.

*Sasa Tobagenozoana* Koidz. in Acta Phytotax. Geobot. 5: 202 (1936) et 11: 107 (1942).—*Neosasamorpha Tobagenozoana* Tatewaki in Hokkaido Ringyō Kaihō 38: 48 (1940).

Nom. Jap.: Himekami-zasa, Himekami-nambusuzu.

Distrib. Japan (Honshū and Shikoku)

*Sasa Yoshiokai* Nakai was reported from Chōmonkyō, Prov. Nagato in 1936 as a new species of sect. Acrocladula (=Lasioderma). But I reduced it to the subspecific status under *S. stenophylla* Koidz. in 1977. Investigating the type specimens in TI and the topotypes collected recently by N. Miyake, it is clarified that *S. Yoshiokai* Nakai should be included into the sect. Monilicladiae, not Acrocladula, and it is quite identical with *S. Tsuboiana* Makino. On the other hand, *S. Tobagenozoana* Koidz. reported from Mt. Himekami, Prov. Rikuchū is evidently belongs to sect. Lasioderma, and in 1978 I reduced it to the synonym of *S. stenophylla* Koidz. subsp. *Yoshiokai* (Nakai) S. Suzuki. Therefore I propose to alternate *S. stenophylla* subsp. *Yoshiokai* with *S. Tobagenozoana* Koidz. in the subspecific status as cited above.

(千葉県佐倉市) [redacted]

○コアジサイの新品種 (芹沢俊介) Shunsuke SERIZAWA: A new form of *Hydrangea hirta*

1975年6月に東京都奥多摩川苔山のフローテを調べていた際、川苔谷百尋滝の少し下流で、コアジサイ *Hydrangea hirta* (Thunb.) Sieb. のがく片と花弁が葉化したものを探集した。この時の株はあまり大きなものではなかったが、翌年7月には川苔山山頂附